「考古遺物（鉄製品）の保存処理・公開」事業の進捗状況について

廣瀬憲雄（事業責任者）

綜合郷土研究所では、2019年度より3年間の予定で、「考古遺物（鉄製品）の保存処理・公開」事業を開始した。この事業は、綜合郷土研究所が所蔵する出土鉄製品のうち、希少価値があり、学術的にも特に重要なものを中心に保存処理を実施し、所内での保管体制を整えることを目的としている。対象とするのは、寺西一号墳出土大刀10本のうち、大刀1～3の3本である。

最終年度となる今年度は、象嵌が発見された大刀1の研ぎ出し、大刀1～3の化学処理と破片の接合を行い、保存処理を終える予定である。研ぎ出し・接合に際しては、状態の悪い部分を中心に、どの範囲まで研ぎ出し・接合を行うかという問題がいくつか発生したが、その都度事業責任者である廣瀬が元興寺文化財研究所の関係者等と調整を行い、作業を進めている。現在のところ、年末ないし年始には保存処理作業が終了する予定である。

また今年度には、これまでの研究成果を報告書としてまとめるとともに、研究成果を披露するシンポジウムを実施する予定である。あわせて、刀身に象嵌が発見された大刀1に関しては、同時期（6世紀）の事例が全国でも10例程度という貴重なものであるため、シンポジウムの開催にあわせて報道発表を行う予定である。なお、以上の事業（特にシンポジウムと報道発表）に関しては、豊橋市文化財センターなど関係機関・研究会等にご協力いただくこととなっている。

大刀1刀身の象嵌の一部（花文＋龍文？）